



わたなべ・まさこ／1957年潟上市生まれ、東京都在住。東京外語大ロシア語学科卒。ニューズウィーク・インターナショナル東京支社等に勤務。59歳の時、肝内胆管がんステージ4と診断、手術・抗がん剤治療が奏功、5年経過。2020年7月、患者支援、研究支援、疾患啓発をミッションとする「胆道がんの会（デイジーの会）」を立ち上げ代表を務める。(https://tandougandaisy.jimdofree.com)

## 難治性がん克服へ、 コミュニティを形成

渡邊 眞佐子（昭和51卒）

医学が進んだ現代でも難治ながんがあります。その代表格のひとつである肝内胆管がん（胆汁の通り道にできる胆道がんのひとつ）と突然診断されたのは2016年。ステージ4、リンパ節転移、大動脈転移もありながら極めて高難度の手術を受けることができたものの、術後すぐ肝転移、術後抗がん剤を2020年3月まで続け奏功。極めてまれな幸運に恵まれ、5年が経過しました。生きていることに厳粛なものを感じます。がんはとてつもない不安と恐怖で襲いかかり人生を一変させます。しかし、たとえ困難な状況であってもそれに応戦する本然的な力が生命の内内にあるように感じます。人間は無常にはんろうされる存在ではないと感じました。

胆道がんは外科治療以外の有効な治療法が確立されておらず、早期発見が難しく、5年生存率は約20%（ステージ4の場合は1桁）と90年代から低いまです。年間罹患者数は約24,000人と希少なが、年間死亡者数は約18,000人（第6位）。抗がん剤は3種類しかないと知った時は衝撃でした。研究がなかなか進まない現状。自分の経験から見えたこの課題の解決のために何かできないかと思いました。奇跡的に命を救っていただいたことへの深い感謝の思いが原動力となり、昨年7月、「胆道がんの会（デイジーの会）」を始めた次第です。有効な治療法を望む患者さん皆の切実な声。専門医や情報も少なく患者さんは不安の中に孤立しがちです。デイジーの会は「患者支援、研究支援、社会への疾患啓発」をミッションに、病気に関する正しい知識を普及させるための情報提供・啓発、患者交流・相談、疾患に関する調査研究を行うとともに、診断・治療の向上のための研究促進支援にも取り組んで参りたいと思います。

試行錯誤ですが、患者さんの声、ご支援者の皆さまに背中を押していただき、光栄にも肝胆膵の権威や若手の先生方の多大なお力添えをいただき、この1年間、デイジーの会は大きく成長させていただきました。東京医科歯科大学の先生によるオンラインセミナーは盛会となり、オンライン交流会、個別相談などを実施。また米国の「胆管がん財団」と提携。すべてのステークホルダーが繋がるコミュニティを国内外で形成しております。

デイジーの花言葉は希望。患者さんが病氣と闘う一助となれば、未来への小さな一石となればと願います。皆さまのご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

## 秋田潟上国際音楽祭<sup>(※)</sup>の 開催にむけて

千田 桂大（平成18卒）

時勢柄世界は大混乱の中、「文化」は蚊帳の外になっています。この混乱を契機に大転換を図ろうとしている中、いかに「文化」が中軸であるかを忘れられているのではないかと<sup>もんごう</sup>潜越ながら感じる日々を送っております。

日本は地理的に辺境にあるが故か、我が国は米国に次ぐ二番目の経済大国である、中国の発展とどう向き合うかと、政界では論じられておりますが、他国（他人様）ありき、主語に「自分」があるメッセージがないと感じてしまいます。経済あって文化が生まれるというのは大きな誤解であり、文化が先であると考えます。身の回りの「商品」はデザインという美的工程を経て生産されており、そこにはより伝わりやすさへの工夫があります。この「美的工程」をなくした世界を考えることは可能でしょうか。それは不可能であり、あるとすればチンパンジーの世界です。地方の街頭では大企業の誘致を謳い、雇用創出を訴えているポスターに溢れています。大企業を誘致したところで、受け入れる側に「文化」がなければ一過性の雇用に過ぎず、いつまでも都市部に従属することになるだけです。ではどうすべきなのでしょう。「文化」を持つことです。自分の「言葉」を持つことです。文化を持つことで、何故各々が働いているのか、つまり勤労の意義が認識できる。勤労の意義がわかれば自分と国家とのつながりを認識できる。つまり自己実現の下絵を描くことができ、勤労に活力が生まれる。活力ある人の集合体が活力ある街となる。「何か」に従属しなければ立ってられない地域ではなく、住民一人ひとりが主人公の自発性に溢れた、持続可能な社会が実現できるのではないかと考えます。この混乱の社会の中に、秋田から世界へ、世界から秋田へ、相互に発信できる音楽祭<sup>(※)</sup>の実現を志しております。私にはあまりに荷の重い仕事ですが、偉大な先輩方の知恵とお力を少しでもお借りできればと思い、ここに寄稿させていただきました。

敬天愛人理想を高く、己を治めて世の為尽くす所存です。

※世界中のトップアーティストを秋田の地に呼び、地域文化の向上・地域の活性化を目的とするもの。定期的な開催を目指す。（詳細はHP）QRコード掲載



ちだ・けいた／1987年潟上市出身。桐朋学園大学在学中に世界的巨匠のエリックハイデシェックの内弟子となる。第3回アラン・マリナロ国際ピアノコンクールを始め国内外のコンクールで入賞。ユーロ音楽祭、ベルビニャン音楽祭を始め多数の音楽祭に出演。ルーマニア国立管弦楽団を始め多数のオーケストラと共演、室内楽においてもウェールズカルテットなどと共演。2021年には世界三大ピアノのベヒシュタイン社とアーティスト契約を結ぶ。